



ステージ	Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		Ⅳ期			
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3	
テーマ	村を楽しもう		村を知ろう		村と関わろう		村に貢献しよう			
探究課題	【生活科の内容】 自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ		村で活躍する人々の思いや願い	村の自然環境(山・川・海)やそれを守る人々の取組や思い	村の特産品とそれに関わる村の生産者	村の安全な町づくりや防災の取組を支援する人々	地域の伝統や文化に学ぶ人々	働くことの意味や働く人々の夢や願い	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織・地域への貢献	
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能	(知識の基礎) ・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付く。	知識 村で活躍する人々には、思いや願いがあることが分かる。	村の環境を守る人々の思いや願いについて理解することができる。	村の財産(人・もの・こと)を未来に残すために、様々な人の思いやものの価値を理解することができる。	防災に関わる人それぞれの思いについて理解することができる。	村の伝統や文化に関わる人々の思いや願いを理解することができる。	地域の方々の仕事に対する姿勢や願いに気付き、働くことの意味や価値を理解することができる。	町づくりや地域活性化のために地域活動に参画することが、地域の新しい価値の創造につながることを理解することができる。	
		(技能の基礎) ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける。 習慣 ・生活のリズムを整える ・病気の予防に努める ・安全への意識を高める ・道具や用具の準備、片付け、整理整頓ができる ・遊びのルールを守る ・施設や公共の場所のルールやマナーを守る ・時間を守る ・適切な挨拶や言葉遣いができる ・訪問や連絡、依頼の仕方を知るなど 技能 ・必要な道具を使って遊んだり、ものを作ったりする ・手や体、道具を使って掃除ができる ・動物や植物の世話ができる ・電話や手紙などを使って連絡する など	技能 挨拶をしたり、電話や手紙などを使ったりして連絡するなど村の人と適切に接することができる。	状況に応じて調査を行ったり、村の人や専門家から情報収集したりすることができる。	村に昔からあるものを大切に扱い、見学やインタビューなど状況に応じて村の人と適切に関わることができる。	災害から身を守るために、自助、公助、共助の考えを基に村の人と関わることができる。	村の伝統や文化を辿る中で、見学やインタビューなどを相手や場面に応じた方法で実施することができる。	目的に合わせて情報を収集し、適切に情報を蓄積することができる。	収集したい情報に合わせて、適切な方法で効率的に情報を収集し、蓄積することができる。	
		(思考力、判断力、表現力等の基礎) ・身近な人々、社会及び自然などの対象を自分との関わりで捉え、対象のもつ特徴や価値を見いだす。(捉える) ・自分自身や自分の生活について考える。 (分析的に考える) 見付ける、比べる、例えるなど (創造的に考える) 試す、見通す、工夫するなど ・気付いたこと、楽しかったことなどについて、多様な方法によって他者と伝え合ったり、振り返ったりする。(表現する) 言葉、絵、動作、劇化など	課題の設定 身近な課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの準備をしたり、取り組みの順番を考えたりすることができる。	村の人々の思いや願い、努力によって、村の環境が守られていること、村の人々との関わりながら探究的に学んだことによる成果であると気付く。	村の人々の思いや願い、努力によって、村の農業が受け継がれていること、村の人々との関わり、自分の生活と関連付けながら探究的に学んだことによる成果であると気付く。	自分達の関心から課題を決め、解決方法や未来に残したいもの、魅力を発信するための方法を具体的に順序立てて構想することができる。	多様な方法で情報を収集し、情報を蓄積することができる。	問題状況の中から課題を発見、設定し、解決の方法や手順を客観的なデータをもとに考え、見通しをもって計画を立てることができる。	目的や意図に合わせて、情報収集の手段を選択し、情報を適切に蓄積することができる。	問題状況の中から課題を発見、設定し、解決の方法や手順を客観的なデータをもとに考え、仮説をもとに計画を立てることができる。
		整理分析 集めた情報を比較し、観点ごとに分類し、表などを用いて整理することができる。	集めた情報を表やグラフ、思考ツール等を用いて分類・整理し、特徴を見付けることができる。	他教科等で培った表現力等を生かし、課題に沿って理由付けしながら相手に応じて分かりやすく表現することができる。	他教科等で培った表現力等を活用し、相手や目的に応じて方法を工夫しながら伝えることができる。	適切な思考ツールなどを選んで情報を整理し、情報と情報とがどのような関係にあるか見いだすことができる。	収集した情報を比較したり関連付けたりして、共通点や差異点を見付けたり、確かな理由や根拠をもたせたりすることができる。	他教科で培った表現力等を活用し、自分の意見や立場を明確にしなが、相手や目的に応じて効果的に表現することができる。	収集した情報の視点を定めて分析したり、因果関係を推測したりすることができる。	他教科で培った表現力等を活用し、自分の意見や立場を明確にしなが、相手や目的に応じて効果的に表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	自己理解 ・思いや願いに基づいて、身近な人々、社会及び自然に、自ら働きかける。	自己理解 探究活動の中で、自分や友達の考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとする。	自己理解 身近な人と協力して課題を解決しようとする。	自己理解 自分と身近な実生活・実社会の問題解決に他者と協働して進んで取り組もうとする。	自己理解 探究活動を通して、自分自身を理解し、他者の考え等を受け入れ尊重しながら学び合おうとする。	自己理解 探究的な活動を通して、自分の生活を見直して、自分の特徴やよさを理解しようとする。また、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。	自己理解 自分の意思で、目標をもって課題解決に向けた探究活動に取り組もうとする。他者と協働して取り組もうとする。	自己理解 探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や目標をもとうとする。探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題解決に取り組もうとする。	自己理解 探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や目標をもとうとする。探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題解決に取り組もうとする。	

<p>【学習活動】 ・地域や児童生徒の実態を踏まえた探究的な活動の充実 ・児童生徒が自ら発信、取り組みたくなるような学習活動の充実 ・地域の「人・もの・こと」(外部人材の活用)を生かした学習活動の充実 ・コミュニティ・スクールを活用した学習活動の充実</p>	<p>【指導方法】 ・各教科等と関連した指導の重視 ・個に応じた指導の工夫 ・思考ツールの活用 ・学習内容によってはSDGsを意識し、持続可能な社会について考える機会の設定 ・各教科との関連を意識した学習活動の展開 ・資料(図、写真、グラフ等)を活用した言語活動の工夫 ・協働的な学習活動の充実</p>	<p>【指導体制】 ・9年間を見通した小中のカリキュラム編成 ・小中の関連、連携を意識した指導 ・小中の協働、支援体制の構築 ・校内研修等で学期ごとに計画の進捗状況を確認し、計画を調整 ・地域の人材や他機関の効果的な活用 ・チームティーチングの日常化</p>	<p>【学習評価】 ・児童生徒の自己評価、相互評価 ・個人の変容を重視した個人内評価 ・指導計画の見直し ・学期末、学年末における指導計画の評価の実施 ・学習アンケートの集計、分析等による次年度への計画の練直し ・制作物による評価の実施 ・観察による評価の実施 ・ポートフォリオを活用した評価の充実</p>
--	---	--	--

各教科等	特別の教科 道徳	特別活動
<ul style="list-style-type: none"> 授業スタンダードに基づいた主体的・対話的・深い学びの授業づくりを推進する。 探究的な学びに活用できる見方・考え方を働かせた授業を行う。 活用、発揮できる知識・技能を習得できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土を愛する心と豊かな人間性を育成する。 さまざまな事象を自己との関わりで広い視野から多面的、多角的に考え、自己の生き方について考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方についての考えを深め、自己の魅力を生かして表現することができるようにする。 集団活動から互いのよさや可能性を発揮し、生活上の課題を解決することができるようにする。